



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 397  
April  
2026

## トピックス

### お知らせ

📌 アジア防災センター宮木一寛 新所長の就任

📌 人事異動

### 国際会議への参加

第58回台風委員会総会への参加

### ADRC客員研究員レポート

📌 バツァヤ・ツォグト (モンゴル)

📌 マービン・タグホイ・マンザノ (フィリピン)

## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
<https://www.adrc.asia>

© ADRC 2026

### ●お知らせ

#### アジア防災センター宮木一寛 新所長の就任

このたび、アジア防災センター (ADRC) の所長に就任しました、宮木一寛 (みやきかずひろ) です。

ADRCが設立されて、今年で28年となります。これまでのメンバー国、アドバイザー国、関係機関からのご支援に、この場を借りまして、心より感謝申し上げます。

ADRCは、①防災情報の共有、②人材育成、③コミュニティの防災力向上、④新たな防災技術の展開・導入を4つの柱として様々な事業を展開しています。中でも、GLIDE (世界災害共通番号)、メンバー国からの客員研究員 (VR) プログラム、ICTを利用したコミュニティ防災、センチネル・アジアをはじめとする宇宙技術の防災への活用などが、ADRCの特徴的な事業であります。このような取り組みは、30年近くにわたり、諸先輩方、現役の職員の方々の努力の賜物であります。その根底には、災害による被害を最小限にしたいという思いのもとに形成されてきた、「人と人とのつながり」があり、これこそがADRCの貴重な財産であり強みであります。

これを最大限活用するためには、つながりを錆びつかせないようにコミュニケーションを密にとってメンテナンスするとともに、新しい技術や情報についてアンテナを高くすることが極めて重要であると考えています。また、ADRCの事業の取り組みや成果を積極的に発信して、社会に役立てることは、メンバー国、関係機関等の理解や信頼を得るためだけでなく、ADRCで働く職員が自信と誇りをもって働くうえで、不可欠であると考えています。

2年後には、設立30年という大きな節目を迎えますが、これまで築かれた財産を大切にしつつ、節目をこえた新しい時代につながるような取り組みを進めてまいります。みなさまのADRCへの引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



### 人事異動

2026年3月末をもちまして、前所長 笹原顕雄氏および前管理部長 高磯守氏は派遣元へ戻られました。これまでのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、新たな場における今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

なお、次号では森口芳隆 新管理部長をご紹介します。

## ●国際会議への参加

### 第58回台風委員会総会への参加

ADRCは、2026年3月10日から13日にかけて韓国・済州島で開催された第58回台風委員会総会に日本政府代表団の一員として参加しました。この会議は、台風災害の被害を受けやすい14の加盟国（12か国および2の特別行政区）による年次総会であり、前年度の活動報告や、今後の取り組みに関する重要な決定が行われました。

会議では日本から、1) ADRCによる2025年の「センチネル・アジア・イニシアティブ」における緊急観測要請（EOR）の動向および能力構築の状況、2) 内閣府による、2027年10月に仙台で開催される次回アジア太平洋防災閣僚会議（APMCDRR2027）の開催発表、3) 気象庁による2025年台風シーズンの概要、について報告されました。

本総会において、第58回台風委員会の議長に韓国気象庁長官 イ・ミソン博士が、副議長にシンガポール気象局局長 コー・リーナ氏が選出されました。その他の決定事項としては、提案の承認、作業部会報告書の確認、規則の改正、および今後のイベントの開催地承認などがありました。

また、代表団間の協力とパートナーシップを強化するため、レセプション、ネットワーキング・ディナー、文化視察も開催されました。



ジェラルド・ポトゥタン ADRC研究部次長によるセンチネル・アジアに関する発表の様子

## ●ADRC客員研究員レポート

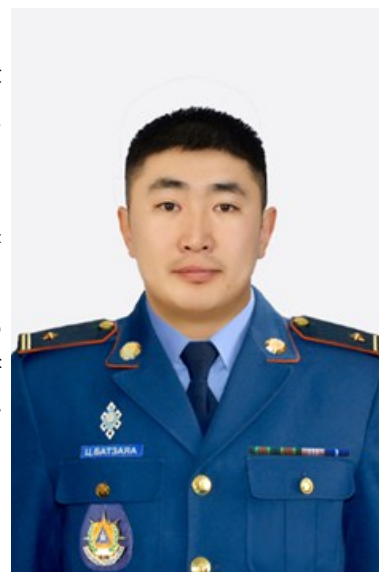
### バツァヤ・ツォグト（モンゴル）

皆様、こんにちは。私はモンゴル出身のバツァヤ・ツォグトと申します。電気通信分野の修士号と工学の学士号を取得しており、現在は災害管理、災害統計、データ分析の分野で専門職としてのキャリアを目指しています。

これまでに私はモンゴル国家非常事態庁（NEMA）傘下の複数の部門（災害対応調整・早期警報センター、通信情報技術、防災部、リスク管理部）で実務経験を積んできました。

これらの職務経験を通じて、国家レベルにおける災害状況の複雑かつ広範な性質について深い理解を得ました。現在はモンゴルNEMAリスク管理局にて、災害情報データベース担当上級専門官を務めています。主な職務内容は以下の通りです。

- 国家災害情報データベースの開発・更新・管理
- 災害情報システムの運用・機密性・セキュリティの確保
- 効果的なデータベース管理のための新ソフトウェア・技術の導入



ADRCのVRプログラムに参加できることを大変光栄に存じます。本プログラムにおける私の研究テーマは「災害リスク軽減のための災害情報データベースの効果的活用」です。また、その目的は、以下の通りです。

- 災害関連用語と定義の研究

## 続き

- 災害発生に至る危険事象・事故の分析と災害指標の特定
- 災害登録手続き・システム・データベースの検証
- 技術とイノベーションに基づく日本の先進的災害管理手法の習得

VRプログラムを通じ、世界および日本のベストプラクティスを研究し、自組織および自国の災害管理システム改善に応用することを目指します。これにより、タイムリーで正確かつ信頼性の高いデータ共有の確保、防災のための災害情報データベースの効果的な活用促進、データに基づく意思決定の実現が可能となり、最終的には災害リスクの軽減を通じてモンゴルのより安全な社会構築に貢献できると確信しております。

この貴重な機会を提供してくださったADRCの皆様、ならびに推薦と支援をいただいたNEMAおよび所属部署の指導部に対し、心より感謝申し上げます。この栄誉あるプログラムに参加できることを大変光栄に存じ、貴重な知識と経験を得られることを楽しみにしています。

## マービン・タグホイ・マンザノ（フィリピン）

マービン・タグホイ・マンザノ（博士）です。私は防災・災害リスク軽減・管理（DRRM）の実務者であり、現在フィリピン国防省市民防衛局（OCD）傘下の民間防衛・災害管理訓練研究所（CDTI）において、カリキュラム開発部門の責任者を務めています。政策立案、能力構築、業務管理、戦略的リーダーシップの分野での経験を有し、研究、研修プログラム開発、市民防衛システムの制度化を通じて、国家及び地域のレジリエンス強化に貢献してきました。国際物流・サプライチェーン管理を専門とする経営学博士号、災害リスク管理修士号、戦略的マネジメント・リーダーシップの博士研究員課程修了の学位を取得しています。また、ASEAN地域プログラム修了者であり、AHAセンターエグゼクティブ（ACE）プログラム（第7期）および第13回ASEAN緊急対応チーム（ERAT）を修了しています。

私の研究および政策業務は、緊急事態対応準備、物流・サプライチェーン監査、公衆衛生リスク分析、運用枠組み開発など、災害リスク軽減・防災（DRRM）および市民防衛の幅広い分野に及びます。主な貢献としては、アジア防災閣僚会議2024における国家緊急事態準備対応計画、緊急被害アセスメントおよびニーズ分析（RDANA）、エリアコマンド構想、認定コミュニティ災害ボランティア（ACDV）マニュアル及びオンラインプラットフォーム、民間防衛構想、ならびに現在進行中の国家民間防衛枠組み及び国家民間防衛計画2026-2030の策定などが挙げられます。出版物としては、地方政府向け物流監査システム、フィリピンにおける健康格差、帰国海外フィリピン人向けCOVID-19安全対策に関する著作が含まれます。私の研究活動は、エビデンスに基づく政策の推進、レジリエントなガバナンスの促進、国家防災体制の強化への深いコミットメントを反映しているものです。

研究・知識・スキル開発をさらに深化させる機会を与えてくださったADRCおよび日本政府に心より感謝申し上げます。



## 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は [editor@adrc.asia](mailto:editor@adrc.asia) までEメールをお寄せください。